



『剣道に感謝』



新潟県
心武館道場
中学2年 洋谷千彩

「どうしてきちんと礼ができないんだ。相手に失礼だろ。」

小学校六年生のある試合、私は父に強くおこられました。終わりの礼をきちんと出来ていなかったのです。私は、正直勝てると思っていた相手に、一本も取れず引き分けで終わってしまい、その悔しさがきちんと礼をしないという形に表れたのでしょう。それを父に指摘され、私は自分のふがいなさに涙があふれてきました。

私は小学校二年生の頃から剣道を始めました。そして、これまで剣道を通じて多くの「感謝」に出会いました。

一つ目は相手に対する「感謝」です。

剣道には「打って反省、打たれて感謝」という教えがあります。もし、相手から一本を取ったとしても決して満足せず、もっと良い打ちが出来ないか自己反省する。逆に打たれても、自分の弱い点を教えてもらったと相手に感謝すること。私はあの試合以降、勝敗にかかわらず、共に戦った相手に感謝の気持ちを込めて礼をしようと心掛けています。

二つ目は、祖父に対する「感謝」です。

私の祖父は道場の館長です。祖父は仕事で忙しい父の代わりにいつも私たちを迎えに来てくれ、道場に一番に入ります。道場に向かう車の中は、剣道のことを教えてもらう他、学校や部活のことなど、祖父といろいろな話をする大切な時間です。

小さな頃から私たちに剣道を指導してくれていることはもちろんですが、祖父がいるからこそ、私はこうして剣道が続けてこられたのだと感謝しています。

他の先生方も仕事が忙しい中、稽古をつけに来てくださいます。それは本当にありがたいことです。だから、私は感謝の気持ちを持って大きな声で先生方に打ちかけます。

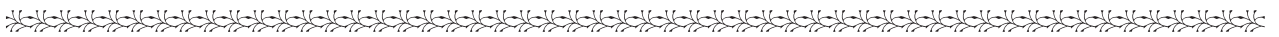
三つ目は、一緒に稽古をする仲間や先輩後輩に対する「感謝」です。

「交剣知愛」（剣を交えておしむを知る）

私は、これまで剣道を通じて多くの人に出会いました。私には、かけがえのない友人がいます。私と私の双子の妹と彼女の三人で一緒に剣道を始め、いつも一緒に稽古をし、試合で戦い、切磋琢磨してきました。他にも、私を慕ってくれる道場の小さな仲間達、周りで私達のことを見守ってくださる保護者の方々、そしてこの大好きな道場で稽古ができることに感謝しています。

私は中学校でも剣道部に入っています。この夏で先輩達が引退してしまい、私達が新たに部活を引っぱっていく番になりました。これまで喜びや悔しさなど様々な経験を積み重ね、たくさんの汗と涙を共に流してきた頼れる先輩達が残してくれたものを、これからは私たち二年生が後輩達に伝え、より良い剣道部をつくり上げていきたいです。

その他にも、試合や錬成会などで会う他校の仲間もたくさん増え、人と人のつながりが広がっています。こうした剣道を通じて出会った人達は、私の大切な宝物です。



来年は三年生になり、受験を控えることとなります。日々の勉強と、道場や部活での剣道を両立することはとても大変ですが、「文武両道」を目標に、一日一日を大切にして頑張っていきたいです。

今の私の環境は決して当たり前ではなく、とてもありがたいことです。私は剣道に出会い、感謝することの大切さを学びました。この先、私が出会うであろうたくさんの人達に対し、剣道で学んだ感謝の気持ちを大切に、これからも日々歩んでいきます。